

全日本ライラ大会及びライラワークショップ報告

全日本ライラ大会実行委員会
副委員長 角谷 浩二

去る3月11日(金)、12日(土)、13日(日)2泊3日、舞洲野外活動センター「舞洲ロッジ」にて全日本ライラ大会が開催されました。井上暎夫(第2660地区PG)全日本ライラ大会委員長の開会点鐘の音とともに、日本で初めての全国規模のライラセミナーが始まりました。



この全日本ライラ大会及びライラワークショップの開催は、去年の大阪国際大会において、プレコンベンションで国際ライラが開かれるはずであったのが諸般の事情で中止になり、第2640地区、2650地区、2660地区、2680地区の国際大会ライラ委員会(第4部会)がその代案として、全日本ライラ大会及びライラワークショップを開催させて欲しいということを経済産業省に要請し実現したものです。



開講式の後、基調講演として講師に千 玄室様(元 RI 理事、京都 RC)をお迎えし、「未来に望む若い人」という題目で貴重な体験談を踏まえたお話を聞き、基調講演終了後、ロータリアンのライラ関係者以外は神戸ポートピアホテルで開かれるライラワークショップに参加するためバスで移動し、それと受講生は大阪青少年財団(ユース大阪)が作成したプログラムで研修活動が始まりました。

2日目朝からは、伴 義孝様(関西大学教授)に「青年よ、『重力』と遊べ」という題目で講演をいただき、それに続いて前田 正一朗様(RI2650、前地区 WCS 委員長)には「たった2滴のワクチンが命を救う」という題目で講演をいただきました。昼からは悪天候の中、受講生が班別のチーム対抗ディスカバリーウォークラリーで対抗試合を行い、ライラ担当ロータリアンは、7班に分かれた受講生のそれぞれの班のカウンセラーとして受講生と一緒に活動しております。夜のグループ発表には受講生と一緒に演台に立ち、自分の年齢を忘れて受講生と一緒に発表していた姿が印象に残っております。

3日目はライラセミナーで得たものをグループごとに模造紙に書き発表し、カウンセラーの講評の後、閉講式を迎えました。

ライラワークショップは神戸ポートピアホテルで開かれ、「21世紀におけるライラの意味するもの」を開催テーマに、基調講演を深川 純一様(第2680地区 PG)にお願いし、「近未来のライラに



における夢」を分科会の共通テーマとして、全国各地より参集いただいたロータリアンの皆様方と活発な意見交換、情報交換会を行いました。尚、総括講義として最終日に今井 鎮雄様(元 RI 理事)にご講演をいただいております。

全国各地区で行われるライラセミナーは、一律のプログラムで開催されるものではありません。全国各地区独自のプログラムで開催され、それぞれの特徴があります。関西4地区が主催し

た全日本ライラ大会及びライラワークショップは、4地区のロータリアンが心を一つにして、何度も会議を重ね、ライラセミナーで青少年に奉仕できる最良のプログラムと最高の人材、環境のもと開催させていただきました。中越地震で被害にあった新潟からも受講生が2名きております。全国規模のライラはこれが最初で最後になるかもしれません。ライラはロータリー活動の青少年奉仕の一翼を担うのでありますが、私にとってライラセミナーは青少年と出会う場であり、地区内外を越えたロータリアンとの出会いの場でもあります。ロータリーの友情を知る貴重な機会でもあります。ライラは青少年を対象とした、その地域社会における青少年指導者になるための、又善良な市民としての資質の向上を目的とした青少年指導者養成プログラムです。しかし私にとって、青少年が学ぶ以上の事を学ばせてもらえるのがライラであると確信しております。この全日本ライラの1週間後(19日~21日)に当地区のライラセミナーが青少年海洋センターで阪井委員長のもと開催されます。全日本ライラでの経験を踏まえ、阪井委員長と共に、全日本ライラに負けないくらいの素晴らしいライラを開催する意気込みであります。どうかロータリアンの皆様方でライラセミナーを未体験の方がおられましたら、是非一度ご参加いただきますようお願い申し上げます、全日本ライラ大会及びライラワークショップの報告とさせて戴きます。

